

安里川 親水庭園

二級河川安里川（1号安里川） 最大幅員29m（河川管理用通路含む）延長約230m

（那覇）「なーふあ 水の庭」

地区内を大きく蛇行して流下していた安里川は、流れを緩やかにし、断面積を広げました。かつて壺屋焼の土や薪を載せた伝馬船が行き交ったという、いにしへの水辺の姿をうつし、安心・安全で、街と一体的に調和する“親水庭園”として修景設計を行いました。

【琉球石灰岩】護岸には、沖縄本島南部で採掘された琉球石灰岩を使用しました。サンゴに由来する琉球石灰岩は、石垣や石畳の材料として古くから広く使用されており、旧河川でも護岸として利用されていました。今回の付替工事にあたっては、護岸部分を深目地の雑相方積みとし、擁壁部分を相方積みとして、自然植生や経年変化による趣きを醸し出すよう意図しています。親水プロムナードの路面は、すべての人が移動しやすいよう方形貼りの石畳となっています。



【シーサー橋】安里川の歴史とさいおんスクエアの未来を見守る「壺屋焼巨大シーサー」の近くにあります。



【カスケード】再生水を配し、滝のあるせせらぎを創りました。

【ワンド】潮位の変化がよく判ります。カニやミナミトビハゼが生息しています。



【直立擁壁】はつり風やスリット仕上げによる陰影効果で硬さを軽減し、赤瓦タイルをアクセントとしました。



【シンチキー】識名園の水辺の階段をイメージして船着場（シンチキー）を再現しました。潮位の変化に関わらず利用することができます。



【植栽】親水庭園内には、サガリバナ、ハスノハギリ、クロヨナ、イワダレソウなど、沖縄の水辺に見られる植物が数多く植栽されています。法面の一部はソフトショルダーの芝生としています。



【蔡温橋】昭和初年に新県道（現国際通り）の建設に伴い架橋され、王国時代に大規模な土木事業を指揮したことで知られる蔡温（1682-1761）を顕彰して命名されました。（2010年架替）



【であいばし】多くの出会いが再開発を完成に導いたことを記念すると共に、牧志と安里を繋ぐこの橋が街に新たな出会いをもたらすよう願いを込めました。親柱と高欄にはガラスが使用され、スレンダーな桁が軽やかに川を跨いでいます。



【あがり橋】さいおんスクエアの東端に位置していること、まちが盛りあがるという願い、牧志町民会の旗頭が東一番であることにちなんで名付けられました。

